

○遠江國名所之

○三河山

三河の宿と白河宿との宿との間に
中山南へ海へ橋を架かす大石の間に
雲のわら橋を架かす所あり
三河の山に麻を織る所あり

○塩田

白河宿の宿より塩田は是より南
のりふを以て鹽を煮る所あり
二つの島あり

○橋中

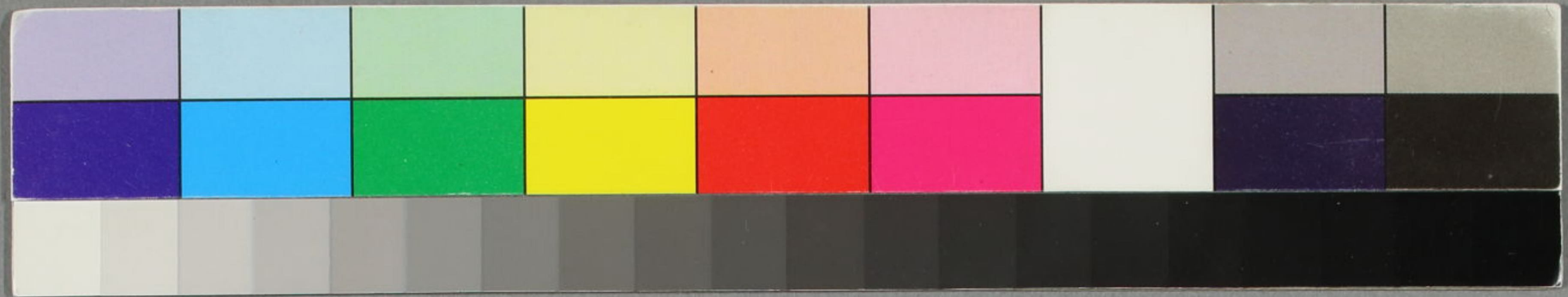
日越の橋より二里の橋中のやま
水海あり

三河の山に麻を織る所あり
橋を架かす所あり

○橋中

入海より山あり橋を架かす所あり
三里余の山あり橋を架かす所あり
おせきとけりな坂とて三河山





の山より今よりわりの山より大なる海

○天龍川

淡路の宿と見付の宿との間にあり
よしく大河の野乃長ぬ世河とこ
ゆりとして

世川のよき流もよみ中乃
人々のよきと見付

○今の浦

見付の宿と所よあり水海あり
鴨長由所一頁の時

作の音とねらるるとの浦よ
さうの里のよきと見付

○京川

淡路井の宿と熊川乃宿との間に
あり川にわたり南流あり

京川や熊川乃水のよきと見付
すじ里人のよきと見付

○懸川

宿のよき作野のよきと見付

名物よき葛布とよみのと高ん

これと世里のよきと見付
葛布と布と熊河のよきと

○釘の浦

懸川乃り行ね五里よりあり東南

うきわたりあり海名也相良と云
所漆わりの釘の浦大磯の漆と云

舟入也世名と云釘の浦と云也
高浦よりあり相良と云高野

名物ありありの所の人た云あり
さうの浦

○作中島

淡路の宿より今岩の宿(熊川)中
島也しほねりあり大木ぬたきと云
より西行は所のよきと見付

年よきと見付と見付
命ありあり作中島乃中島



○菊川

作良山東の麓也新坂の宿を
東の海に流るるの合戦れとて
院宣と書し然るより先就に
関東の山に流るる色りの川
有南陽縣の菊水と流ると
らふとのがうへ東海に菊川
西家に宿く今後と稱せの
と非りとく流せしとありと云
此所也云々

わとれあるるら新坂の宿あり
此川に流るる菊川乃宿

○大井川

此川は海河を流るる傍に今宿の
宿と名付の宿とありとあり
直に流るる也川系は二里あり
海に一帯の大河に元暦元年の
比鴨長の流るるより此所の
川と云ふと云

日板あり流るる大井川

同國名物出所之類

こころ水もやれあり

○干姜 干姜 國産の云々 ○紫根 紫根 出所

○茜 茜 出所 ○淡紅 淡紅 出所 ○鮮 鮮 出所

○葛布 葛布 懸川の宿あり高根本に産

○搗和布 搗和布 懸川の宿あり行五里中角の

○白根 白根 村と云て中角の宿あり

○荒井 荒井 出所 ○他 他 出所

○松茸 松茸 出所 ○大 大 出所

○筍子 筍子 久野村に産 ○小 小 出所

○菊川 菊川 同所産 ○日 日 出所

たのつた様を他と云わりのつたの
乃中記ありと云ふ事ありしれど
お遠のよへ世所なり行程二里
余東南のつたつた作念村と云
所よあさく文字も世念と書也
縁記をゆつたつたありゆへり
不記○西坂と云所たのつた
八幡の宮ありたのつたか全堂
あり世所ありまんと云う也
たのつた今の浦といふ海あり
○中泉所是より二里有余なり
○天降川海あり世川と云のつた
に池田の宮長者の住けり記と云
わり卒に家盛と云ありゆへ親
子乃石塔今より五里あり出
ねん池田のつたと云つた也
○中の所○わんま所標あり長サ
十石あり○かじ村町のつたあり
つた○まこの系と云あり
家康との所降場也利連の所也

○植松村より五里あり

○淡松より 常飯エ 二里あり

○赤塚○篠原新田たのつた

入海也と云松茶坂乃るはすまり

○新坂より 荒井エ二里

後赤井門院院應八年六月十日

大地震よ大山ありまゝ入海と云

所の入りは所雲州あり世の所

と判と云通定と云新坂と云

○荒井より 白須が三里あり

何れのつたのつたは後名標乃

はわりしと云山と云是よりあり

大日本書紀

名所の記よりくわり
○三所山○橋本やまの海あり
南西へ流るく白木の南北川(流
入あり)

○白根をより二川エ 二里土所
町なるもた境入坂あり○ささ
さのりし解とさのりささあり
○堺松冬河とささのりささあり
いさだ橋あり

是より来乃宿く冬河の
圃の分あり

東海道十五ヶ国内

○冬河國八郡下ノ圃四万草

知行萬三千三百六十五名

碧海 八名 額田 播次

宿屋 八名 役所 匠者

○吉田之城 長白り七十二里

城表

永祿七年

酒井左衛門尉忠波

同左衛門尉家次

天正八年

池田三左衛門尉輝政

慶長五年

松平左衛門尉家清

同氏松平補忠清

慶長七年ヨリ

松平主殿忠利

寛永九年同圃若尾所替

寛永九年ヨリ

水野隼人忠清

寛永十八年信列松本所替

寛永十八年三月 四万五千石
水野監物

正保二年同国云修所習

正保二年

四万五千石

小笠原忠茂守忠和

四万石

同 城守長頼

外三共同丹後守三千石同
外記配分

同

同 志保守長祐

元禄三年志保守死去依子
弟佐渡守終式相續之

○當城 旺

同 佐渡守

同国 ○因修之城 江戸より七十七里

代々城主之次第

三河河原順国之時

御居城

原隠後守

十方石

串兵衛補吉政

長五年後後久苗米所習

慶長五年三月 五万石

同 豊後守廣

同

同 豊後守康重

五万五千石内五千石寛永
十年加修

正保二年 遠列横次所習

五万石

水野監物忠善

○當城 旺

同 右衛門大忠春

同国 ○西尾之城 江戸より八十二里七丁

○代々城主

田中兵部補吉政 持分

慶長七年ヨリ 三方石 本多政房助康俊

元和三年ヨリ 三方石 松平將監成重

元和六年ヨリ 三方石 本多正徳守俊次

寛永十九年ヨリ 三方五十五石 大田由中守資宗

正保三年ヨリ 三方石 井伊兵部補直之

万治五年ヨリ 三方石 増山彈正康正利

同式

同兵部補利須

寛文三年ヨリ 三方三石 井伊兵部補利長

○當城主

同式於安福利忠

○新屋之城 江戸ヨリ七十二里

代々城主

水野氏代居之

水野和泉守忠重

慶長五年ヨリ 三方石 水野日向守勝成

元和二年 和州郡山王所替 水野隼人忠清

元和三年ヨリ 二万石 寛永九年同国吉田王所替

和州

寛永九年ヨリ 三万石 松平主殿於忠房

慶安二年ヨリ 松平主殿於忠房 慶安二年丹波福知山所置

慶安四年ヨリ 二万三千石 稻垣根津守重種

當城主 二万石 同信濃守種祥

外平石同牧馬配分

同国 田原城 江戸ヨリ七千二里十九町 但三河通

明應年中彈正左衛門宗光筑之

代々城主 尹田彈正左衛門宗光

同 彈正忠憲光

同 左近政光 同 彈正忠弼某

彈正少將某其男在左衛門某其子 三郎右衛門忠次城兩代依令流浪今川 義元持分但忠次成長之後為其列 下田公城主五千石領之至其次代又為 當城主

應長六年ヨリ 左万石 同土佐守忠次

同 因幡守忠能

同 伊予守忠治

寛文四年肥前天守工所置 三宅松七守康勝

後土佐守上改自寛文四年大坂 五番死去

同 出羽守

同国 大崎 江戸ヨリ七十九里

石田

○備官

社从百平石

中村之

○同社

社从百平石

八幡村之

○同社

社从百平石

长原村之

○同社

社从百平石

小浜村之

○同社

社从百平石

西尾之

○大所大御所

社从百平石

望大竹

○天王

社从百平石

八面村之

○同社

社从百平石

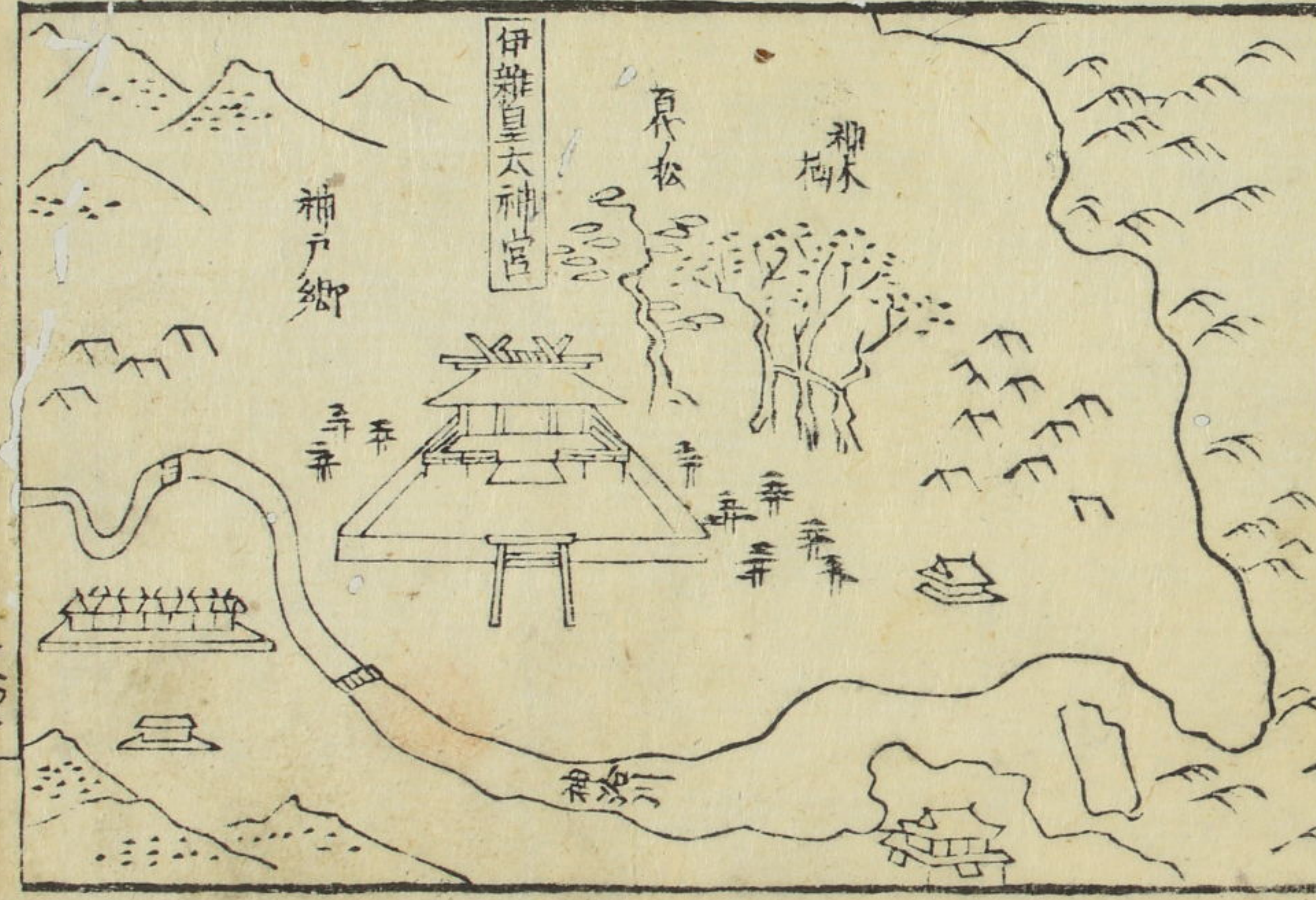
篠原村之

○同社

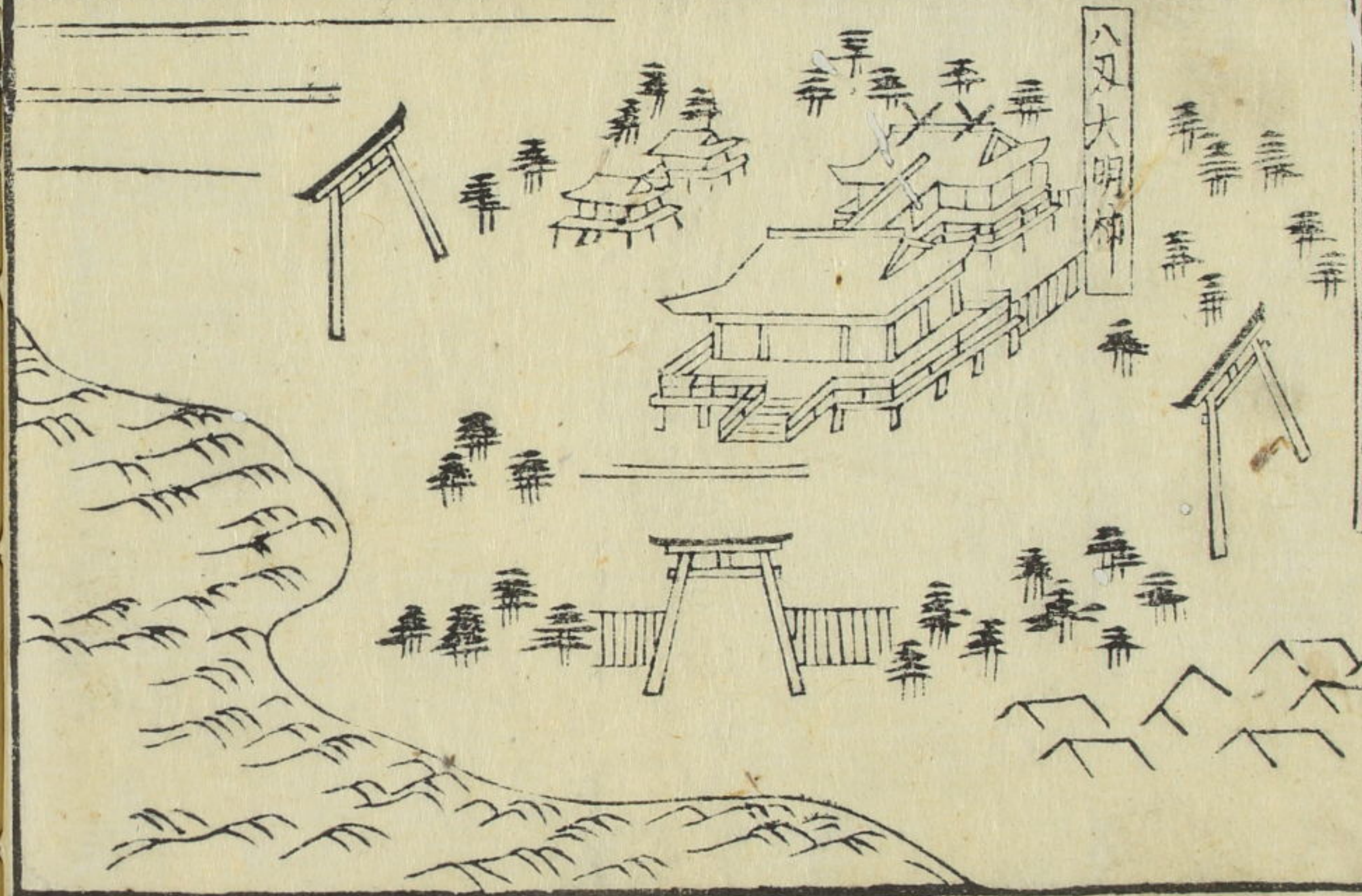
社从百平石

上野村之

志摩之國磯部太神宮



尾張之國熱田太神宮



○同社 社从十石

篠塚村之

○神 社从十石

吉田之

○同社 社从十石

中嶋之

○同社 社从十石

徳永村之

○吉田 社从十石

吉田之

○吉田 社从十石

同所之

○熊野 社从十石

臣海村之

○大御 社从十石

○大門 社从十石

○林 社从十石

六五

六五

○賀茂神社

社从百名

○校投神社

社从十名余

池經射立

○梯井神社

社从卒名

大園立

○田山神社

社从百二十名

○稻荷大社

社从二十名

○下宮神社

社从三十六名

○東照宮

社从七百名

風来寺立

社僧大台

○同國中諸宗佛閣之大概

○風来寺

寺从七百四十五天台宗寺立

○滝山寺

寺从六百十五天台宗

○高山寺

寺从二百五十五天台宗

○東觀音寺

寺从百二十天台宗

○真輪寺

寺从二百名天台宗

○泉福寺

寺从百十五天台宗

○賤賀寺

寺从百二十天台宗

○泮光寺

寺从五十五天台宗

○留賀寺

寺从干石右同宗

○蓮花寺

寺从五石右同宗 丁子立

○法恩寺

寺从七五石右同宗

○長久寺

寺从十六石右同宗

○正宗寺

寺从二十六石右同宗 山名立

○寶相寺

寺从七十六石 竹傍立

龜山院文永八年足利滿氏公
建立山爾開山ト云ク

○高隆寺

寺从二十五石右同宗

○正覚院

寺从二十石右同宗

○赤岩寺

寺从五十五石右同宗

○淵跡寺

寺从十九石右同宗 吉良立

○大慈寺

寺从十八石右同宗 大久保村立

○花山寺

寺从二十五石右同宗 墨山立

○長久寺

寺从十六石右同宗

○惣持寺

寺从百石右同宗 墨傍立

○極楽寺

寺从三十石右同宗 田所立

○雲貞寺

寺从百九十九石右同宗

○長圓寺

寺似平石右同家 中修之

○長因寺

寺似百石右同家

○金久寺

寺似二十六石右同家

○常光寺

寺似三十石右同家

○林泉寺

寺似二十四石右同家

○新海寺

寺似二十五石右同家

○本光寺

寺似三十石右同家

○悟真寺

寺似十三石 澤土家 吉田之

○大樹寺

寺似五百石右同家

○大林寺

寺似百石右同家 畠修之

○法苑寺

寺似十三石右同家

高寺也く 東照宮御幼家の
所付所也勢を修く

○大音寺

寺似百石右同家 水戸村之

○松應寺

寺似百石右同家

○乃月寺

寺似百石右同家 杉平村之

○萬松寺

寺似五十石右同家

○光徳寺

寺似百二十石右同家

○養尊寺

寺似二十六石 谷田村之

ひしきらぬの長らうしうしうし
あり世所と夫を記をいすまふ
日本武のそふ東夷と知らはるん
て世所よそり夫と多そく物と
ありうり世名ありと云傳ん

○宮地山

美作の里よりそし小向の里也
あふ川あり山はうろす後撰
名のうらた

○二村

信地山はくあり千載及のそ
後仲純言傍忠

○久乃里

二村よりいれ也行程を里とく也
程りく久の里もあまなり
二村山と綴くくさうまこ

○豊河

今橋と云里より山也三河乃山の
山はつと云也八橋と云西より遠
いの云言作山のありとある中
かろくた云山ありと云うりた
河也

○早野

狩人の名を記ふと云やう
ゆらと云らん豊河乃原
○花園山 地名後 荒野
たのやを所りまると云れと也

同國中名物出所之部

○雲母

名舎砥
山よりあり
○矢根 伊豆期と云
伊豆期と云
其名石海邊より出

○石貝 イソホリヒシ 雅海藻 昆代紙

○岩場菱 ニワバリ 批菱角 菊屋白契

○ヒロヲロシ 蛸 奇居虫

○海産物 芋川糸 各物也

○江戸ヨリ京を東海道宿
道法付島田中五分

○白河 遠列 二河を 二里十町

白河の宿はさきほに塩尻と
してけりき坂あり是今富士山
足も坂の上をたなをり少く
電氣くくはてはさき坂と
河と遠列乃さきわたり小川

○三河より 吉岡 二里十町

宿のうらとをさきわたり
の大岩はよ名穴あり親着
と流るる也大うら坂と云
いひまの々たのふた石を
りよあり

○吉岡より 御池 二里十町

宿のたのふたに坂あり吉岡
百二十方あり地橋下より舟
て修治へり也○三井乃々○小
○本坂宿のたのふたに坂あり
五のふた也御池より坂
敷と云て地をいりき遠は
侯松の宿一里より出也大雲
たのふたに坂あり○御池
所と云く御池の宿にあり

○御池より 赤坂 十六町

たのふたに坂あり

古傳の伝ありと云ふ大木乃松平

○赤坂より 友河エ 二里九丁

鳴浜御系屋あり山平たのこ
に室を祀ちと云傳古あり

○友河より 墨修エ 一里九丁

友河よたまたま抄山也○墨乃々

○りやこの女たのこは御系屋の伝
あり○古平川橋あり長四十二里
あり○りけの女たのこは御系屋の伝

墨修の宿に入

○墨修より 池鯉鮒エ 二里四丁

宿のたのこは城あり町をこまに

松平川とてわり橋の長三十三里あり

矢ふたのつたふたの橋あり長二里

あり是利を成と新田より貞と

地所あり合戦ありと云を伝合

戦して争ひく大平記よりあり

○東矢作 西矢作たのこ乃田の

仲に夫たのこを傳り所とて中

この伝あり ○りやの宿○尾橋の

々○今村と云所を宿あり

○西田ありと云ありとてあり

乃宿あり

○池鯉鮒より 鳴海エ 二里十三

左のつた新屋の城ありあり所と

つたたのこは御系屋ありあり

りたのこは御系屋の伝ありあり

中地ありと云市と云く賣あり

ありと云○昔宿○半川と云所

りやの宿切の名物と云今墨村

冬河と尾法と云の宿あり

○わある村○わり所ありと云方の

宿と云て鳴海の宿あり

是より来乃宿とは尾法

國乃分より

東海道十五ヶ国内

○尾張國八郡大上國南北三百

知行高半令八百四石

海部 中務 羽栗 丹羽

春日部 山田 愛智 智多

當資 鴻タカシ

○名護屋之城

江戸より東海道半六里七丁

當國清須八信長之後天正十一年

織田信雄為居城天正十八年信雄

被没叔中納言秀秋領當國

関ヶ原没之此福嶋正則居之其後

忠吉親吉猶左清須城尾張國賜

義直移名護屋慶長十五年築

慶長五年尾張國至

松平薩守忠告

居城清須

慶長十五年後

十方石

平岩寺計以親善

居城清須

慶長五年

卒を方九千石余

尾張大納言義直殿

濃列信列共

○當所城主所代相續

同高

尾張大納言光友卿

同國

○犬山之城

江戸より九十八里

代之城主

元龜初

池田勝三郎信輝

後勝八下号々

天正九年

信長之息

織田源三郎勝長

天正七年

信雄家臣

中川勘右衛門

天正十二年

四万五千名後河内守上兵

芳勘兵衛雄久

慶長甲子石田三成謀反
配作竹

其以後清須城主分

石川備前守

大納言義直卿家長城代

成瀬隼人正成

同 隼人正虎

○當城代

同 隼人正親

同國神社之大概

○熱田大御神

社願七百十石

大宮司

五郎丸

社家

主殿
權正

左系

社傍

如法院

右及外社人社傍數多

為社大御神ハ日本武尊の御無
跡或曰景行天皇甲子九年熱田
社也國郡市郡郡湯市村
無跡と云々
又曰高社御神体ハ高社乃堂
也社代の字ハ天照太孫乃

武尊天神よりあり地なる海
乃女子にうへあひの付日若くは
若よりありんとそは守は獲氏
獲氏といふは且おまといは兄弟
乃そのあり況の獲氏もあまし
く弟乃長且はそりそんは若と
りありんとおまをらうそに長且
なすすみといえんそは其後長且
とらうそをあつ也今金杯のこそ
いひては地巨且おまの樹をあり
相又獲氏おまの家をすといひ也
りいそは若よりなるそは所轄
恩に天下夜鷹のとあれといふ
えん子孫のぞるをあひねらそを
しはりそ乃梅といはれれとえ
乃肩にけさそは御いそは今
の世そは獲氏おまはそは
小れと初おまのそはありはけ大
人の身りはそ入そは地極處社は
三所也

才一素盞之の惑れそ是則牛頭天
皇はそは地業作也才也武尊天
神といひ也

才二福田振也依よ女お井といひり
きこ安錫死乳王といひ也その行
行らる所年徳神といふ是故利
也

才三八岐の大地是巨且おまの愛
作也蛇毒是神といひ其行
する時今令神といはれ是門乃
也

地波利女乃御子八人ありそは
びもそんあそ中も八御子の内
ありそはゆと也といひそそ未地
三空荒神也といひそ中も八地
勝軍神也といひその六神は地業
作也其あり盤古王の化あり
本地親自在ありといひそあり
りそそは井ありそは親音そ
は八神也といひ

○直清田の林 中修の立

為社乃所林夫已貴余のく
則為國乃一官也下之

○虫麻の林 丹根郡之立

○削栗の林 口所之立

○八幡宮 名護郡之立

○天神 口所之立

○東照宮 龍山寺之立

神領主

○國玉大神 玉王村之立

○愛宕の権現 根栗郡 中ノノ之立

為社ハ山城國也名郡愛宕
権現ハ加法する所也ト云ク

同國佛摺之大概

○方松寺

為寺ハ後奈良院天文年中
織田備前守建之ト云ク

○雲光院 名護郡之立

旧家宗也

○四福寺 口所之立

右同宗

同基至一國作の身子室之禪
作無山院又永年中ハ建之ト
云ク

○正念寺 丹根郡之立

右同宗

○大雲院 山田村之立

右同宗

為寺ハ惠玄禪師乃同基ト云ク
本寺行基の作佛也

○光四寺

高寺ハ天武天皇の御宇ハ葉栗
乃人九建之尼寺ト云ク

○南昌院

律出家也

中修ニ立

高寺ハ天智天皇乃御宇ハ建之
同山惠隱法師ト云ク

○阿弥陀寺

山修ニ立

右白家

○正妙寺

法苑宗

高寺ハ寛正年中ハ建之同基
日隆取人也

○了仙院

名護屋ニ立

右白家

○妙音院

海部ニ立

右白家

○西光寺

一向宗

高寺ハ分原上人の同基あり
といふ本寺安河内作

○安楽寺

大山ニ立

右白家

○龍福寺

明海ニ立

只龍林山ト云ク親音也俗ニ
安楽寺ト云いあるゆゑ也此親
音の立所あり世にハ安楽ト云
ひするも此處は世にありと
名いしり

尾張國中津郡海部郡

○阿波の森

下津ト云里乃南ハ地處あり
足原の森并りり地處ニ行
旅十里ありあり云云

是ハ名所のありし所のまゝに
云竹より下津より一里あり
徳雅光のうら

名所なる西の浦のわき
見らるるありくわとせさけ

○菅澤原

下津より一里ありわらわ

東海にわらの東にあり

おとろくろくん社にあり

○枕田

まわりより一社あり
あり西へ海あり枕田の浦と
りあり

○鳴海

若乃名也後田より行一里
中余也

若乃名也わらわ海にあり
わらわとせさす

○上野

海の名より西のわらわ

鳴海とせさ

鳴海に後干に浦ありわら

上野よりわらわ

○齊村の原

此の原より海に名へよき
この原をわらわあり海に
ありわらわ

○星砂

名所なる海の名也
あり西南へ海あり

○長谷の里

里より西へ浦ありわら

神より名をわらわあり
長谷の里にわらわあり

○松風の里

名所なる里にわらわあり

東海道十五國之内

○志摩一郡下之國 四方半月

知行高方七千八百石

各志 英虞有 獲嶋

○戸羽之城

每路百十里 至海及見柳
三河伊勢相通 海上共平
九里二千町

代々城主之次才

九鬼大隅守喜隆

五方六千石

同長守守隆

三方五千石余

肉藤信實守重

同花守忠種

同

同和泉守

延享八年死去

七万石 井周防守利益

當城主

八万石 松平原次郎

同國神社寺院之部

○伊弉諾宮

善志郡依那之庄

上の郷之

神司

中長官

瀬古長官

右之内御所社務之次

○^{タケハラ}越后神社

伊勢志 本國之場

○^{シラガシノホコ}社宮祠

穴根 之

俗に陌の林と云ひしもの林と云ひ
信せしや縁記不祥或人曰
楳田考の命とわらまらる所也
ト云く

○^{権現}権現

浦村 之

當は、富士権現と勧修の地也

○^{成庵寺}成庵寺

大和 之

當寺、慈山院の所字文永六年
多刺用基義宣和尙と云く

同國名所之部

○^{麻生}麻生の浦

穴根浦より原とのくまわたり
て行ぬ二里許也浦村より所
わたり右所也麻生乃浦乃磯穴
産は乃祖わりと云はる地なり

○^{まろぬ麻}まろぬ麻

あつ浦乃原と云はる地なり
つと乃浦と云はる地なり

○^{斤枝}斤枝の梨

まろぬ麻の右の右の右の右の
志げくもあつ浦と云はる地なり

○^{かぬほ}かぬほ

あつぬ蛙 鏡石

右乃分は麻生の浦名所也

○^{安太}安太の溪

面白 乃松云々

穴根の城下より南にわたりて海
邊五里と云り也

名乃あつぬは溪はあつぬ
いつと云らぬ面白乃きり

同國名物出所之部

○^{ナヨシ}鰯戸羽 多

鰯戸羽 多

○^{ニホツケ}同塩漬白

同塩漬 蛇の糞

○^{シニ}真珠貝 井貝 麩冠苔

○^マ和布 浦破 善志より 海より 五

○^{ヲフ}麻生の浦梨

東海道十五箇内

○^{伴勢}伴勢國五郡太土國 南

知行高平七万七千七百石

粟名胡的 錦麻 志志

名每 三重 安濃 飯

飯 飯 飯

○^{桑名}桑名之城 長 九十四里 三

惣而伴勢國六國司北自代 傾之國中諸城彼一家也

氏家内膳正

慶長五年ヨリ 土 本中務大補忠勝

同 美濃守忠政

元和三年備列姫路工所督 土 松平清定守定勝

元和三年ヨリ 同 同原守定

寛永十二年豫列松山所

土方石

寛永十二年ヨリ 松越守定綱

同

同 榎津守定良

當城主

同

同 敬中守定重

同国 ○龜山之城 長ヨリ 百三千里

代々城主之次弟

岡本下野守

三方石

関長守一政

後伯列里坂工所之

五方石

慶長十五年ヨリ 松平總守清匡

元和元年榎列大坂工所之

三方石

元和元年ヨリ 三宅敏後守康信

同

同 太田甚康盛

五方石

寛永十二年ヨリ 本多正徳守俊次

慶安四年進江膳所工所之

五方石

慶安四年ヨリ 石川主殿次昌勝

寛文九年山城位工所之

外方石同姓備守細長外

七方石上野阿波守三千石為

市正配分也

五方石

寛文九年ヨリ 板倉源守重常

當城主

同

同 周防守重冬

重常依字子養子之周防守

實父市正

大日本書紀 卷之六十一

同國 ○津之城 戶ヨリ百五里

代々城主之次才

天平七年 織田上野數信

七方石 富田信濃守

慶長十三年ヨリ 三千三方石伊賀國共 藤堂和泉守 虎

内五方石元和元年加増五方石 同三年於城列和野守加増

同 同太孝公高次

當城主

同和泉守高次

内五方石才佐汝守高通工 三千石八同量書配分之

同國 ○松坂

ヨリヨリ 五方石余 古田兵部少輔重勝 内二方石慶長五年加増

同 同大膳太夫重治

石見濱田工所碁

元和五年ヨリ

紀列領

同國 ○田丸

ヨリヨリ 四万五千石 稻葉藏人道通

同 同淡路守紀通

元和五年ヨリ

紀列領

同国
○長鴻 戸ヨリ 夏里中余

永祿十二年以後 隴川左衛門將監益

織田信雄持分

関弥平次未居之

福嶋掃部助

慶長六年ヨリ 二万石
夏里中戸正定監

同志麻守定仍

同 據於正定芳

慶長十年元志守平去依之
定芳遺跡ヲ継元和六年以前
胎所下所習

元和六年ヨリ 七千石
松平忠政守定勝

寛永年ヨリ 同
松平義作守定房

同十二年存守今治所之

寛永十二年ヨリ 松平能登守定政

慶安二年三列新屋所之

當城主

五万石

慶安二年ヨリ 松平佐渡守良尚

同国

○神戸 戸ヨリ百リ半

五万石

永祿十年以後 織田三郎信孝

隴川左衛門將監益

羽柴平總守勝雅

五万石

慶長年ヨリ 一柳監物直盛

水戸

三五石

石川備守綱長

同

日若校守徂良

當城主

同

日主水

日国

又居 官月百六

五方石

藤堂佐渡守

日四郡代

津役料三千俵
水至四十六人

三千石

田部後河守

日四津代官 参列共二

三百俵

鈴木公若

伊賀之國 南宮大明神

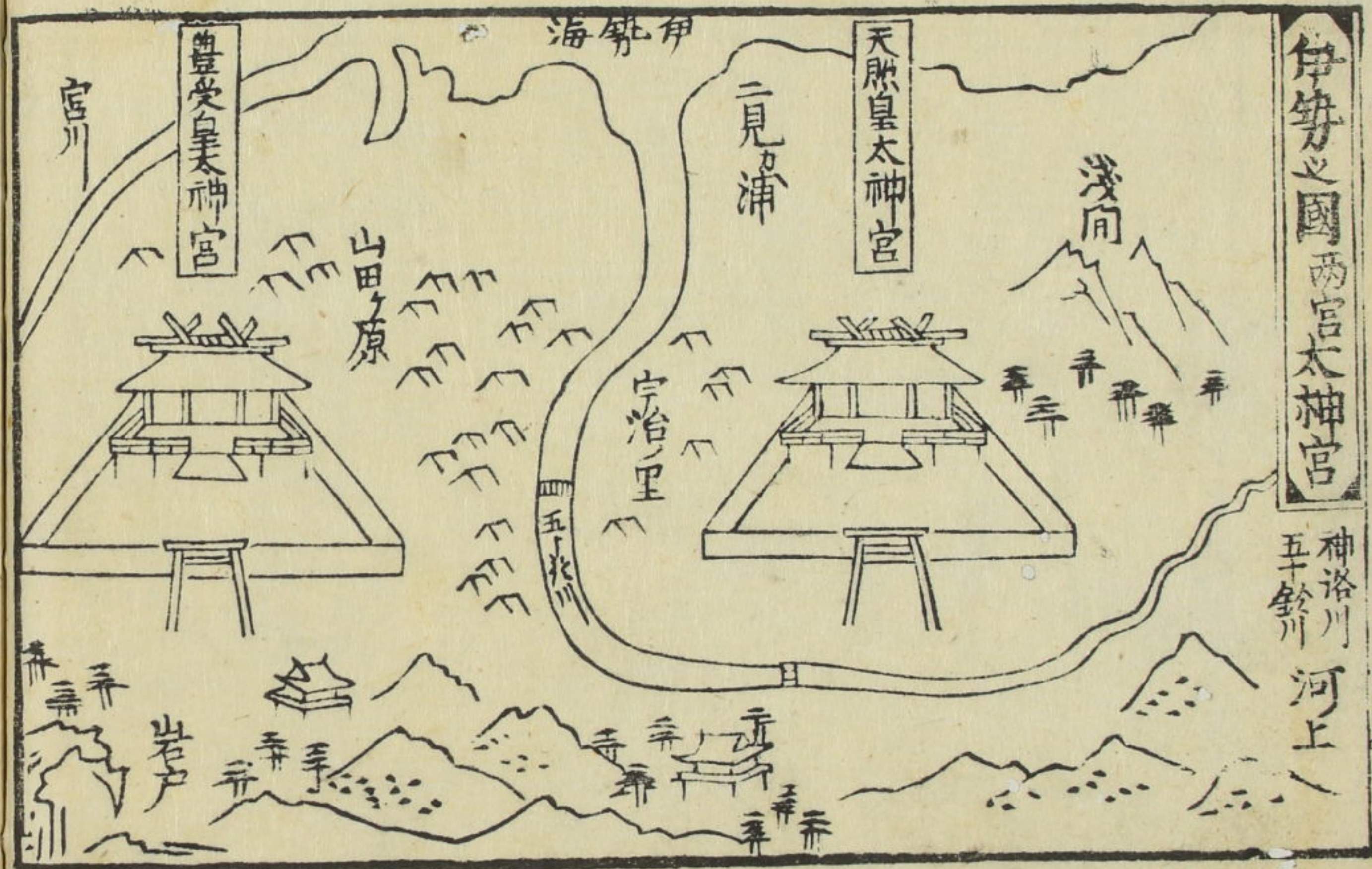


大目録

又三

伊勢之國 兩宮太神宮

神洛川 河上
五鈴



○同國神社之部

○伊勢兩所宮

内宮 神領四方平石

初宮 崇神天皇六年己丑天照太神
修太國玉三神並に祭事 天皇

大殿内 其後 高仁天皇二十六年己
九月十七日 田子天照太神と後分那
宮の五ヶ所の河とらけり

乃神宮 祭主公所の河は 皇太神ハ
奥庭ありしゆは 號内宮ト云く

外宮 雄略天皇二十二年秋七
月七日 豊受太神丹波國古佐郡

野井系より 高麗國後分那山田の
系に迎へたりし 内宮祭主の後四

半四年也ト云く 外宮ト云はるる
村上天王の神宮祭主公所の河

豊受太神ハ 皇太神より 外宮

○櫛田の神 多気郡立

○牟禮大の神 日那郡立

○江田の神 三重郡立

○春日大の神 列高 佛眼寺

○額田の神 一乘名郡立

○天衣神社 日所郡立

○於麻夫の神 北原郡 坂下立

○田村神社 日所郡立
当社、田村將軍の灵社也ト云ク

○八幡宮 安芸郡立
右八幡城也云

○理宮大社宮 小側郡立

○野鹿太社宮 野鹿郡立

○五國の神 多気郡立

○弘法大師 丹生郡立

○修務寺 入定の宮をわり毎年三月廿一日
門敷依成教をせくせり也

○長原寺 天石宗 心田村立

中より土面観音佛教大師の由作
御長ク云々人三子夜のり云々云々
とれと作云々云々云々高寺云々
のり云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々
中より云々云々云々云々云々云々
乃のあり云々云々云々云々云々

人ありてさきにかうけりけるありの
るり母の人の日向より日向の人の
はもありけるあ方の妻もまたたに
とら死ねれどもとせんありて日向の
人々あつたありたのありさるん
のことろこいあ人といふらん
神也とのんかうけりけるのこむ
しのかうりすさうちが國へよりあり
世のあも寺とては業とては傳也
とく

○上立神社

○下立神社

○小立神社

○小山業作

○四社

社はよまらるる字の表あり紫乃
古名也古田氏列之と記す今も

同國諸宗佛相大概

○羽後山

母表
百名 金剛勝寺

寺は百名名之

母表
百名 明王院

用山弘法大師宗刺寺と妙法院ト
号す其後正元和尚登山して一寺
と建之金剛勝寺と名づく奥院
本寺は軍地系前之虚空蔵様
ト云く

○常妙寺 禅宗守之 後今郡立

高寺は内外太神宮の傍に立所の
寺也此ちの類に两大神宮西寺
あり及に徳うりとの石塔あり

○地系堂

日所 立

信に稱す地系といふあるなる
美朱あり

○夢光院

日所 立

寺は五百名

高寺比五尾所也

○不動院 日向之立

○蓮瑞寺 日向之立

○中禪寺 日向之立

○大室院 日向之立

○蜜嚴院 日向之立

○佛眼寺 日向之立

○言上寺 日向之立

○一身田 日向之立

○雲光院 日向之立

○林泉寺 日向之立

○安美良寺 日向之立

○高美院 日向之立

○淨福寺 日向之立

○葉作堂 日向之立

○葉作堂 日向之立

○葉作堂 日向之立

○葉作堂 日向之立

○葉作堂 日向之立

○葉作堂 日向之立

○雲光院 日向之立

○林泉寺 日向之立

○安美良寺 日向之立

○高美院 日向之立

○淨福寺 日向之立

○葉作堂 日向之立

○葉作堂 日向之立

○葉作堂 日向之立

○葉作堂 日向之立

○葉作堂 日向之立

○葉作堂 日向之立

の君と石葉作と云とつたの
素戔嗚尊流國能乎の時世所
望と山中ありつたるる久き人の
くもさけしむハ流所也云と云ふ
る人ありたが石佛山中にありて
るありありのあり久十二の守護
神あり素戔嗚尊ハ素戔嗚尊の
と云ハ則其石ありく葉作の像と
云と云とありと云

○堀干地苑 堀田村立

弘法大師の作ありて大師所
造の寺たまうりて此山作り則此の
ひる方久きありと云云信之志
乃地苑と云

○加茂御所 赤土上御圖書

信二曰天照太孫也妹也と云毎年
六月十五日祭れあり信國能乎并
系之のく此日さ女んんささるん
○惠日山觀音 安原津立
心と云とん再與のわと云葉作

又の御所也毎月十五日開帳あり

○初云本寺 日所立

真初云上人開基

○聖真泉院 日所立

天名宗
城と云と所也

○四天王寺 日所立

中々葉作也

○法光寺 板坂立

法光宗

○持教寺 日所立

日宗

○来光寺 日所立

真初上人流

○西光寺 法原郡立

禪宗

かき行基の作教也の立像也

○洞雲院 日所立
山本村立

日宗

○地蔵堂

岡の南に

この堂は地蔵の一体和名開元と
と傳傳ふが地蔵也

○大庵寺

志志立

伝説堂也

高寺の後名興院の傳傳日堂
人建之ト云

○妙光寺

張山村に

日宗

○法蓮寺

大平村に

日宗

○南海寺

志志立

日宗

高寺の寛正年中の建之因基日
隆上人ト云

○行福寺

大徳に

日宗

○靈巖院

おのこ

伊豆宗寺の百十西名

同國名所之部

○総持山

坂の下より玉山之越るる也坂の東
総持山と云宮あり

総持山の西の海に環るる也
志志立なりと云

○牛久保

伝説総持山と云岡の南より北
岸の坂下をト云一ありと云
と云と云ありと云也志志立

今傳傳と云也

あり初て後日に伝傳総持山

○阿野の松原

志志立なりと云也

伝説の海に伝傳の松原なり

志志立なりと云也

○後掛松豊園社

志志立なりと云也西國の人來宮

昔の伝はれは後を考ふ所の是也
個よりより一に其後人の所はるる
ふるりて見ゆる所より三ヶ年
又の後あり一多量の是は後と
て多量とありと云傳ありも其所の
る也

○星川 胡の里

海の名也日永川と云あり野あり
行旅三里也川がより南ありれ
より南あり所あり

○桑名

日永の名も三里あり桑名も
海名あり

桑名よりより三ヶ年星川の
船名あり日永ありなり

○竹の宮

其宮の所は所也山向より三重
之海名は柳田川を以て中ら
これ竹の世は都をよりより
ありありの所あり

○宮川

山向の入口也宮川あり其宮の人
秘とすも也新古今秘紙の
に定也

秘ありては宮川のゆかり
あり世もすもは秘紙

○天照篇

佐々天乃名々々の公外宮乃上也
南方の山あり北山に名々々々
佐々との名々々々南白也
林山松乃下道あり
表ありありありありあり

○平次

門宮へ事路の人其川を後す
あり其川は山より西へ南より
也流よりありすも川も也
林山松乃川のつれ
とてその所は名々々々
表ありありありありあり
とてその川のはんありは

平次

河内

内宮より一里半あり海ありてあり
宮ありて境の宮と云ふ也

井ありてありて後世の御所
傳ふるなる相違あり宮

三原浦

三原の浦は浦より三原と云ふ
冬後古くは三原と云ふありて
くは古くは三原と云ふありて
三原と云ふ也

浮瑠海

惣名は浦と云ふなり也
浦の浦は三原と云ふあり

おろけの浦ありて三原の浦
浦の浦は三原と云ふあり

後原浦

浦の浦は三原と云ふあり
又三原と云ふあり

綿乃浦

三原と云ふあり

洞川

洞川の浦は三原と云ふあり
洞川の浦は三原と云ふあり

洞川の浦は三原と云ふあり
洞川の浦は三原と云ふあり

三井

三井の浦は三原と云ふあり
三井の浦は三原と云ふあり

三井

三井の浦は三原と云ふあり
三井の浦は三原と云ふあり

阿波浦

阿波の浦は三原と云ふあり
阿波の浦は三原と云ふあり

一志乃浦

一志の浦は三原と云ふあり
一志の浦は三原と云ふあり

車之岳

川台の園 小野

小燈井 穀乃野 林修
衣乃分乃子後令のちらわ
又新依之之所也

同國名物

綿 紬 木綿 海老 馬力

蛸 杓子貝 蛎 鮑 蟹

鯨 鮪 鮓 鮓 鮓 青苔

馬鹿とよ 防風 三貝の浦乃後破

海松 海羅 國修若布

同荒布 鹿尾藻 其苔

串柿 同推草

葉系 椽 黒柿板 曆

水根 爲國丹生也 櫛 留

物指 日所 沖田 麻 地所外宮

内宮六本あり林生より配之 地風にあはれぬありと云 宇治乃

真糸 木の下と云所 阿比山家履

緋色形 爲國白子と云所之作之

白粉 庚 爲國阿比の海也

有衣 竹少繩 爲國の地所

儀系 衣所と云所 高女 儀系

○江戸名物を東海道乃

尾列 法付富國中之印 宮多衣乃 葉若之 七里

此海川本有川のすそに水はて
ねれはけさうねとんちり風はか
くくかかきり前あり信さるる
所へありてすん海よりたの
に○熊傳と云あり後には
天皇よりたてまつる修防浦の
わたりとていふは常也なる
乃海つとていひも此海上の
なり

○桑名 四日市 三里市

宿のたけりてはあり○やこの
の大やの村○おの村○所
あり橋百六十方あり去橋
○とさ村○うた村○あさけ
長平一乃去橋也○松寺村○
く村○この村○この川橋
十の方去橋也○この川○
長三十三方あり四日市
○四日市 石葉原 二里市
此所海あり○この村○

たの松本殿のうらた外宮の
○ひこの村○おの村○
うは修防海あり常也あり
市より修防山向まの
いさすて○かこ村○
橋あり長五十五方也○
ありまんちとていふ也○
所を多あり○たさと云
系のうらた桑名あり

○石葉原 三三河

右のうらた海あり所の
たのうらた海の下に桑名
地本は地よりたてし石
とていふ所の名とせし
○この川ありたてた
ありれはせし川あり

○三野 桑名 一里市

桑名は桑名なる名物あり
○この川あり○中と

東海道十五之國之内

○修賀國四郡小上國 四万二日

知行高九万五千五百九十石

阿拜^{アバ} 山田^{ヤマタ} 伊賀^{イガ} 名張^{ナカ}

○上野 江戸より百七十里十八町

天正十一年以後尾張及當國織田
信雄願入 八万石

筒井信俊守定次
慶長十一年指高

慶長十三年より

藤堂和泉守高
持分

同大学頭高次

當願主珍列共 持分

同和泉守高次

持分

同國神社并寺院之大概

○敢國^{アゲクニ}の林

河井郡立

高社金山丸の命乃密跡に
あるの一宮より南宮乃社と号す

○小幡宮

伊賀郡立

○同社

川根村立

○小村^{コムラ}の林

名張郡
小村立

高社神林体八^{オチノ}大^{オホ}巳^ミ貴^キの命此高
社あり之後冷泉院乃河守永兼
年中に社建之とあり

○権現

上野立

○天王

中下立

高社八^{ヤチ}家^カ無^ム為^シ守^シ乃^ノ保^ホ之^チ平^ヘ歌^カ天
王^{テンノウ}をかります也

○某御堂

松原村之

○成庵寺

山向郡之

曹洞宗也

高寺の義和年中の建之因由実和尙ト云ク

○好来寺

塔口之

隆去宗也本寺源院行基乃所作也ト云ク

○法光院

西尾川之

同宗也

○観音堂

所産村之

高観音の春日此作ありと云ク此のらんがりト云ク

同国名所之部

○誰其森

高國ハニク名所ありと云ク此の森ハ又ハニク東海に於てありと云ク

○新のまき

まきあけて新のまきの森なり

○新の森

新の森ト云ク此の森ハ新の森なり

○急の森

拍野

同国名物出所

○同茶 家理真徳右三所 高国根本也

○焼物

紅花

多葉茶

○松茸





1. 1. 1. 1. 1.

2. 2. 2. 2. 2.